

年間第 2 1 主日の説教

金 大烈 神父 2009 年 8 月 23 日 (日)

《真実を見る目と命の意味》

おはようございます。

今日の答唱詩篇(詩編 34)を見て、思い出したある国のことわざがあります。それは、『鏡は絶対に先に笑わない。』という言葉です。どんな意味がお分かりだと思います。皆様が今日きれいな声で歌った答唱詩篇はどのような内容でしたか？『主が訪れる人の顔はかがやく。』私たちはこの言葉の内容を吟味しながら、各自の顔は自ら各自が責任を持つ必要があるのをもう一回考えて頂きたいです。それは外見的な事は見なくても、内面的な事を見ようとする心です。そういう意味で、見なくてはならないところは《目》ではないかと思えます。中にあるものは目を通して現れるからです。誰かがその《目》を見て、穏やかさを感じる事が出来るなら鏡も笑ってくれると思えます。

これから絵を一枚お見せします。



この絵には、2 人の人が描かれています。帽子をかぶっている右の人をご覧になると誰かが思い浮かぶでしょう。歴史的な人です。はい、そうです。『チャップリン』ですね。では左の人は？ はい、そうです。『ヒットラー』です。誰が見ても右の人は『チャップリン』で、左の人は『ヒットラー』と思えます。しかしこの画には面白いことが隠れています。それは、描かれたモデルは同じであり、ただ、帽子を被せた事によって、このように極端に変わって見えることです。この絵はある帽子会社が、“あなたもうちの会社の帽子をかぶったら天使になれる”という宣伝の為に作った絵です。これを見て自分は違う観点から考えてみました。

皆様は自分の《目》をどの位、信じますか？ 私たちは好きなもの、嫌いなものを見ながら判断します。五感の中で、人間は先ず《目》で判断します。しかし、その《目》からの情報をどのくらい信じるべきでしょうか？ 結論から言いますと見えるものが全てではないということです。見えなくても必ず有るものがあります。

私達がありのままを見る事が出来ないのは、この帽子のようなものがあるからではないでしょうか？ 真実を見落としてしまう邪魔な帽子のようなものを私たちは持っているのではないのでしょうか？ 正しい信仰の道を歩もうとしても、いろいろな偏見・先入観によって正しい道を歩むことが出来なくなってしまう事はありませんか？ 人を見る時、外見で判断してしまい、神様から頂いた相手の人間の尊厳さが見えなくなった場合はありませんか？ そして本物ではない物によって、人間のかかわりの事を間違っていた事はないのでしょうか？ 正しく相手を見えないようにする帽子のようなものを私たちは例外なしに持っていると思えます。

信仰の生活をしながら、信仰に相応しくない道を歩ませる帽子を私達は持っています。そして、各自によってその帽子は違うと思えます。ある人にはお金、ある人には傲慢さ、ある人には愚かさ、あ

る人には傷。それによってイエス様が私達にあらかじめ準備して見せようとしていたものが見えなくなってしまう。

何故このような話をしているかと申しますと、なによりも、この帽子のようなものによって、私達に対しての神様の愛が見えなくなる恐れがあるからです。神様が愛しているのに、その愛に気がつかなかつたら何という損になるのでしょうか。神様の愛に気がつかなかつたら、私たちは結局、自分を責めることになります。自分を責めると自然に相手も責めます。全てのものが責める対象になります。

今日もう一度このミサを通して考えてみましょう。妻は妻として、夫は夫として、子供は子供として、人間は人間として、その尊い価値を認めないようにする帽子のようなものが自分にとって何であるかを悟らせて下さるように祈りましょう。そして、その傷が癒されるように願いましょう。

私たちはいろいろな悲しい歴史を持っています。そして今も表にはそんなに見えないかも知れませんが、人間と人間の間、自分と他人との間でいろいろな不公平な事が結構あるのを私たちは分かっています。正しい目で正しい心を持ち正しい人生を作ろうと、いつも取り組まなくてはならないと思います。神様は私達を心から愛しておられます。『えー本当かな！』と思う疑う心は無くして下さい。

さあ、今日の福音(ヨハネ 6・60-69)に入りましょうか。司祭がミサで御聖体を授ける前に「神の子羊の食卓に招かれた者は幸い」と唱えます。その後、皆様は「主よ、あなたは神の子キリスト、永遠の命の糧。あなたを置いて誰の所に行きましょう。」と答えます。その言葉は今日の福音で読まれたシモン・ペトロの答えからとった言葉です。「あなたを置いて誰の所に行きましょうか。」このような心で信仰の生活をするのが一番ふさわしい事です。このような告白が自然に出来なかつたら、実際に信仰の生活をしているとは言えないと思います。「あなたを置いて誰の所に行きましょうか」という告白は「ちょっとまってください」とか「どちらに行っても私はかまいません」と様な返事とは全然違うのであることを私たちは分かっています。

今日の福音で、なぜ多くの弟子たちがイエス様から離れて行ったのでしょうか。その前の箇所、イエス様は「私は天から下って来た、生きているパンである。」と話されたからです。その当時の沢山の人々にとっては、この言葉自体が常識ではない、納得できない言葉でした。その為、「あなたは素晴らしい、あなたに付いて行きます」と言った多くの弟子達さえ論理的に理解出来なくて離れてしまったことです。この様子を見ていたイエス様はご自分で選んだ 12 人の弟子達に「あなたがたも離れて行きたいか」と言われました。そのときシモン・ペトロが「主よ、私たちは誰の所に行きましょうか。あなたは永遠の命の糧です。そして聖者です」という告白をします。

皆様、今日の福音を通してもう一つ考えて見ましょう。私にとってイエス様は本当に生きる意味になっているのかを考えて見ましょう。歴史の中の聖人達の命の意味はキリストでした。私達にとってもキリストが全ての意味になるように祈って欲しいんです。『あなたを置いて誰の所に行きましょうか』という告白が出来るようにキリストに願いましょう。

ありがとうございました。